

1. 研究活動

<p>論文 「座る女・歩く男——ガレル、ベケット、コピの創作における「部分」の役割」</p>	<p>2016. 2</p>	<p>『映像』第2号、28-34頁。</p>	<p>フランスの映画監督フィリップ・ガレルの作品にみられる「座る女性」と男性との交差はするが結ばれない関係を「視覚の運動」との関連から論じた。イメージの生成とも深くかかわる視覚の運動については、劇作家のサミュエル・ベケットとコピにもガレルと似た表象が多々みられるため、両作家の作品も並行して取り上げた。</p>
--	----------------	------------------------	---

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

<p>授業科目名 フランス語Ⅱ</p>		
<p>◆前期 ◆後期</p>		
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>	
<p>大学で初めてフランス語に触れる学生が音とリズムに慣れることができるように、発声練習を繰り返し行うと共に、簡単な作文を書く訓練を行うことで、日常会話や自己紹介に役立つ表現の習得が無理なくできるよう心がけた。教科書のキーフレーズがどのような場面で使われているのかを知るために、随時学生に馴染み深い映画や歌の抜粋を視聴することで確認し、口頭試験と筆記試験の両面から運用能力を確認した。</p>	<p>テキスト、自作のプリント、映像資料</p>	
<p>授業科目名 フランス語Ⅲ</p>		
<p><input type="checkbox"/>前期 ◆後期</p>		
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>	
<p>フランス語の文法を一通り終えた学生を対象に、様々なシチュエーションを想定して実践的に外国語を用いることを目的に授業を行った。受講生一人一人の得意分野に合わせた課題を作成し、フランス語検定試験3級合格を視野に入れた高度なフランス語の知識の習得を目指した。比較的速いスピードのディクテーションおよび様々な時制を含む作文の課題にも取り組んだ。</p>	<p>テキスト、自作のプリント、映像資料</p>	

授業科目名 異文化入門（フランス）	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
自作のプリントを用いて、毎回異なるテーマ（日仏の家族関係、幸福観、音楽、哲学、美術、ポップカルチャー等）に焦点を当てて、日本とフランスの文化比較を行った。海外での生活や外国人との交流の経験がない学生に対しても、異なる文化や宗教や言語を持つ他者との共生の大切さが伝えられるよう工夫した。随時、授業内レポートを課すことで、自らの考えを論理的に文章化できるように導いた。	自作のプリント、映像資料

3. 学会等および社会における主な活動

日本サミュエル・ベケット研究会	1996. 4～現在	幹事（事務局）2015
日本フランス語フランス文学会	1997. 4～現在	会員
日本比較文学会	1999. 4～現在	会員
早稲田大学グローバルCOE	2007. 4～2012. 3	研究協力者